

会員の皆さま

大阪市手をつなぐ育成会

大阪メトロのインターホン導入・改札無人化への情報提供について（ご依頼）

大阪メトロでは、2023年8月27日から可動式ホーム柵が設置されている24駅26改札口で、遠隔案内システム（係員呼出インターホン）が導入されています。

遠隔案内システム（係員呼出インターホン）の導入により、当該改札口が無人化され、自動改札機のトラブルや福祉割引切符の購入の際には、最寄りの案内インターホンで駅員に連絡をして対応を依頼することになりました。



【遠隔案内システム】 【カメラ付き券売機】

路線名	駅名	改札口	路線名	駅名	改札口
御堂筋線	新大阪	南改札口	千日前線	野田阪神	中東改札口
	西中島南方	南改札口		玉川	南改札口
	中津	南改札口		阿波座	北改札口
	梅田	中北東改札口		谷町九丁目	東改札口
	淀屋橋	中北改札口		鶴橋	西改札口
	本町	北北改札口		今里	東改札口
	なんば	北西改札口		天神橋筋六丁目	南改札口
御堂筋線 四つ橋線	大国町	北改札口	堺筋線	扇町	南改札口
御堂筋線 堺筋線	動物園前	西改札口		北浜	南改札口
		南改札口		堺筋本町	北東改札口
御堂筋線	長居 あびこ	南改札口		長堀橋	中改札口 南改札口
		北西改札口		日本橋	中北改札口
				恵美須町	南改札口

大阪市では1980年11月に、谷町線の喜連瓜破駅に初めてエレベーターが設置されて以来、大阪市交通局が所管する地下鉄やバスでは、交通バリアフリーが推進され、大阪市はバリアフリー化が他の地域よりも比較的進んでいるといわれるようになりました。

その後、2018年4月になると、大阪市の行政改革から大阪市交通局を民営化するとして、これまで直営としていた地下鉄路線とバス路線を、大阪メトロと大阪シティバスが継承することになりました。

大阪市交通局の時代では、交通バリアフリー政策に対して、当事者団体と意見交換をしながらソフト面やハード面での環境改善が進められてきましたが、大阪メトロ・大阪シティバスに経営主体が変わると、意見交換をする機会が無くなり、今回の遠隔案内システム（係員呼出インターホン）の導入の際も事後報告を受けるに留まりました。

遠隔案内システム（係員呼出インターホン）の導入から約2ヵ月が経過し、「障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議」（以降、「障大連」と記載）が中心となり、無人化となった各改札口での利用状況の調査をしたところ、障がい当事者がトラブルに遭遇するなど不都合が多く発生している実態が表出していることから、障がい当事者の声をしっかり受け止め検討するよう大阪メトロに求めました。

それを受け、障大連と大阪メトロと協議の場が設定されましたが、大阪メトロからは経営上や人手確保の困難を理由に「駅員配置を戻すことなどできない」、「今後、車両との段差・スキマをなくしていくので、それに併せて御堂筋線各駅の介助業務スタッフも2025年度中にはなくしていく。他の路線の介助業務スタッフも順次なくしていく」という方針であることが回答されています。

大阪メトロで今回の遠隔案内システム（係員呼出インターホン）が順調に稼働をするようになった場合、現在の24駅26改札口に続き、他の線区の駅に拡大をしていく可能性もあることから、障がい当事者の移動に関してのサポートが後退しないよう、障大連では次回の話し合いまでの間に、以下のような情報を収集しておりますので、アンケートへのご回答のご協力をよろしくお願いいたします。

【設問1】

どの駅のどの改札には、介助業務スタッフを配置し続ける必要がありますか。

【設問2】

設問1でお答えいただいた駅の改札に、人を配置し続けなければならない理由は何ですか。

※アンケートの回答については、FAX（06-6765-5623）、もしくはmail（honbu@city-osaka-ikuseikai.or.jp・本文にテキスト入力可）でお送りください。

◆締め切り日：2023年11月30日（木）【必着】